

# 東九州支部報

第83号

公益社団法人日本山岳会東九州支部 2018年10月25日(木)発行



第 17 回青少年体験登山大会・9 月 9 日(日)・牧ノ戸峠にて

\$ < ℃			
1. 支部活動		より安全な山登りのために(NO30)	11
第17回青少年体験登山大会	2	道迷い	12
健脚組・のんびり組	2	私の無名山ガイドブック(第70回)	13
国見山・鬼ノ目山など	3	初めての尾瀬登山	14
山の安全を祈る集い	4	大分百山完登(NO8)	15
中摩殿畑山・釣鐘山	4	支部からの報告	
ヤブ山研修山行	6	コラボ山行「花の山旅」報告	15
山の日登山・小鹿山	7	支部合同会議報告	16
研修山行・秋霧谷1	8	安全登山のための二つのテーマ	17
研修山行・秋霧谷2	9	第34回全国支部懇談会報告	18
喜寿お祝い登山会	9	第6期登山入門教室開講	19
2. 個人投稿		お知らせコーナー	21
ペンリレー(第30回)「山と人との出会い」	10	後記	24

### 第17回青少年体験登山大会

雨天の中, 猟師岳まで登る 飯 田 勝 之 (10912)

第17回を迎える今年の青少年体験登山大会は、例年になく参加申し込みが多く、実施の三日前までに121名の申し込みがあり、さらにバスの定員にあふれたキャンセル待ちが9人も出るという状況でした。ところが天気予報が雨とわかった実施二日前から参加のキャンセルが相次ぐ状況となりました。

9月9日(日)は予報通りに明け方から雨。大分駅の 貸し切りバス待合場所に来た一般参加者は予定の49 名から大きく割り込んで33名で、支部会員5名が一緒 に乗って出発。一方牧ノ戸峠では般参加者は定刻になっ ても6名だけというありさまでした。それでも、バスが 到着すると総勢69名とほぼ例年通りの参加者数となったのは、予定の合計94名の参加者をガイドしエスコートするため急遽加勢を依頼した支部会員が20名結 集したおかげだ。

しかし牧ノ戸峠は小雨が降り続き、周りは濃い霧で覆われたままです。この時期の日曜日なら駐車場は超満員で。朝からひっきりなしに山へ入る登山者の列が続きますが、今日は駐車場もがら空きで、登山口のゲートから入る人影はほとんどありません。

出発の定刻9時になりますが、もうちょっと様子を見ようということになり、40分ほど天気の様子を見ます。しかし雨脚はほとんど変わりません。予定の久住山への登りは雨天の中で初心者には安全でないと判断。登る山を猟師岳へと変更することになりました。

まずは出発前に登山口のレストハウス横で集合写真の撮影。そして、簡単な柔軟体操などをして出発です。 猟師岳の登り口は900mほど瀬ノ本の方に下ったところにあります。そこから登山開始は健朏組から元気組、そして一番多いいのんびり組は四班に分かれて登ります。小雨の中、緩やかな山道を登っていきます。小雨に煙る草原の稜線道に長い長い列が続きます。山頂まで約50分。到着組は先頭から順次下山で、最後ののんびり組を除いてほかの先発隊は、途中から合頭山へ寄り道しての下山です。牧ノ戸峠登山口までもどって、全員そろって解散式は12時30分過ぎでした。

参加申込者は6歳から84歳までありましたがこの 日の参加者は7歳から76歳まで。今年は別府鶴見丘高 校登山部の1・2年生9名が参加でした。小学生7名と 高校生9名にはささやかな記念品の贈呈です。

あいにくの雨天でしたが、参加者は雨の中の山歩きの 面白さなどが体験できたと満足げで、皆様ご機嫌で帰っ ていきました。

支部会員の参加者…加藤、阿南、飯田(勝)、鹿島、木本、園田、久保、下川、井上、中島、阿部(幸)、桜井、宮原、渡辺(千)、土屋、神田、尾家、石川、長野、芝田、柳瀬、木下、飯田(ひ)、長尾(幸)、長尾(美)

#### リーダーの報告から

#### ちょっと残念そうなだった 健脚組の高校生

#### 桜井依里(15463)

リーダー宮原照昭さんサブリーダーに私くし櫻井が付き 健朏組をサポート致しましたが、たまたま参加者は別府鶴 見丘高校山岳部の教諭と生徒7名で部活動延長状況で足並 みも揃い終始サポートしやすい状態でした。

あいにくの雨で目的の登山の変更を告げられた皆は一様に落胆の表情を見せていました。理由は久住山は高校登山競技の対象の山であり今度の健朏組コースは一年生



に体験させてやりたかったとの引率教諭の話があった。 登山は終始安定した歩みを見せたが感動する山でなかっ たのか最後まで物静でムードがいまひとつでした。

バスに乗る時は汚れた服や靴を脱ぎマナーはしっかり 教育されていました。 これに懲りず来年の参加を期待 しながらお別れをしました。

#### 雨の中ののんびり歩き

園田暉明(13135)

雨天に伴う目的地の変更で、牧ノ戸登山口から近くの 猟師岳登山口へ移動。当班はのんびり組のB班で、リーダー役は私、サブリーダーが飯田ひとみさん。当班の参加者を確認した結果、登山口には来たものの、悪条件を心配して参加をあきらめた方もあり、班員は女性ばかりのA・B・Cさんの3人となってしまった。B・Cさんは高校生。

軽い体操をしていると突然に大粒の雨となり、内心登 山中止の決定を期待したが、それもなく健脚組、元気組 が出発、続いて10時前頃当班も。

一部水たまりのある、コース入口の林を直ぐに抜けると、一面ススキに覆われた草原の緩やかな登りとなる。ススキは丈1m程で、小豆色様の穂が雨で殺風景な景色に彩りを添えている。

コース上は幅1,5m程にきれいに刈られて歩きやすく、15分ほどでT型分岐点のある最初のピークに着く。右に行けば合頭山であるが直進。雨は止んできたが、晴れていれば見えるはずのくじゅうの山並みは、霧の中。ここ付近からは、ススキの中に、風雪に耐えて丸型の樹形となった馬酔木が目立つようになる。少し下って、再び長い緩やかな登りを進むと分岐点のある2番目のピークに着く。

右に行けば九重スキー場の頂上部であるが、直進する。 再び少し下って最後の長い緩やかな登りの中間点で小 休止。気が付くと何時の間にかE班の5名位が追い付い てきていた。

更に進んで、先に到着していた健助組、元気組と入れ替わる形で、11時30分頃、1423mの猟師岳山頂に到着。相変わらず霧で周辺の景色は見えない。

E班と共に集合写真を撮った後、E班に続い



て往路を引き返して、既に山頂近くに来ていた、のんびり組の最終集団 20 名位と離合。長い下りの途中、コース横の大きな石の上に一面に花の付いたミヤマキリシマの1株を発見。6月の開花期を思わせるきれいな咲き方で、この花を通じてB・Cさんが山好きになることを願いながら株に近寄って花を観賞する。

12 時前頃、合頭山への分岐点に到着。同山山頂にも立ち寄り、12 時30 分頃、皆が待ち受ける登山口に到着した。

## 国見山(1391.6m)-鬼ノ目山(1491.0m)-丹助岳(815m)-矢筈岳(666m)

**7月月例山行報告**(7月28・29日)

清 水 道 枝(会友 177)

当初の計画に鉾岳追加をリーダーが提案。民泊予定の「高所」に立ち寄り荷物を下ろす。

鹿川キャンプ場から登山開始。1 枚岩スラブを見上げ、 大滝地点を渡渉。

滝見新道のロープ、梯子の難所を行く。パックン岩が 見えると川まで下りで写真タイム。

2回目の沢渡り地点で可憐に咲いているツチビノキを見つける。

鬼の目林道から雌鉾へ、最後のロープで頂上へ。目の前は雄鉾、隣に鬼の目山。雄鉾で大崩山を前に昼食。鬼の目山へは林道崩壊の為一旦沢まで下り、登り返す。やっと林道に出た所で時間を考慮し日帰り組が下山。

ゴロ石を更に登って取り付き点到着。頂上直下の足場が悪い所を登ると山頂到着。15 時過ぎの為、国見はカット

翌日は台風が近づいているので、午前中丹助のみと決



定。林道が通れないとの事で矢筈登山口から丹助広場を 目指す。1Hほどで広場到着。

天狗岩コースで頂上へ、下りは半周回コースで下山。宿差し入れのスイカの残りで喉を潤し、道の駅「はゆま」で解散。雨が激しく降り始めるも、大分に着くころには雨もやみ 15 時大分着。お疲れ様でした。

参加者 リーダー…久保 鹿島、阿部、宮原、石川、 清水(道)、清水(久)、松浦、大星、平原、井伊、

#### 第9回九重の山の安全を祈る集い

#### 8月月例山行報告(8月5日)

飯田勝之(10912)

今年で9回目を数える「九重(くじゅう)の山の安全を祈る集い」が、恒例の8月第一日曜日(5日)に御地南の丘の上にある遭難慰霊碑前で行われた。この日支部の参加者の大半は牧ノ戸峠からのルートで入山。 私も午前8時半過ぎに出発のみんなの後について登る。しかし一週間前に夏風邪で熱発して、熱は下がったがその後はずっと今朝まで下痢気味という最悪コンディション。

早足で登って行くみんなに最初から置いて行かれ、コンクリートの階段道では、ゆっくり登る法華院温泉院主の弘蔵氏と一緒になるが、沓掛の肩まで登るともうグロッキーで、ここで氏にも置いていかれて一人で登る。

薄雲りの高曇りで、真夏の暑さをさをほとんど感じない天気、絶好の登山日和だが、私にはただしんどい山登り日和だ。久住分かれからのわずかな登りが、このたいしたことのない登りがたまらなくしんどかったこと。慰霊祭の始まる午前11時、私は御池の上の最後の登りを終えたところだ。

慰霊碑の前にはたくさんの人影みえている。そうして 到着すると直ぐにチーンと鐘の音がして弘蔵院主の讀 経が始まった。院主の読む観音経の流れる中、参集者は 順番に焼香で山の遭難犠牲者の霊を慰め、登山の安全を 祈る。讀経も終わり、加藤支部長があいさつでくじゅう 山をはじめとした山の遭難者の慰霊と、登山の全祈願の 意義を説明。

それが終わるとランチタイムだ。慰霊碑の周りの草原に思い思いに腰をおろして弁当を開く。そして食事のあとは、今月の月例山行の目的地である中岳をめざす組や、そのほかのルートをめざす組に分かれる。私はひと足先

に下山とした。欲張って歩く気力もない。午後2時過ぎ 牧ノ戸峠に着く。



この行事はなぜかこれまで不順な天候の時が多い。初回が雨天のため御池の避難り屋実施したのを皮切りに、過去8回の半分が雨天や悪天候に見舞われて、時には法華院温泉の観音堂などで実施したりしている。

これはもしかしたら山の遭難者の悲しみの涙か、あるいは安易な登山への警鐘なのかもしれない。そんなことを考えながら、今日は高曇りの安定した天気に感謝しながら下山した。

参加者…加藤、飯田、下川、宮原、丹生、大渡、尾登、 尾家、久知良、松村、遠江、清水(道)、清水(久) 古谷、 阿部(恵)、弘蔵氏、ほか一般参集者

# 中摩殿畑山(991.0m)- 釣鐘山(852.0m)

**9月月例山行報告**(9月15日)

#### 田 所 歳 朗 (12019) 井 伊 八千代 (会友 227)

大分地方の天気予報は晴れ、今日は久しぶりに良い天気に恵まれたと思っていたが、現地では雨が降っており、雨具を着てのスタートとなった。田所班と宮原班の2班に別れて行動した。まずは宮原班が先行し、5分遅れで田所班が出発した。

#### 田所班報告(報告者:田所)

まずは登山口で軽く打合せをし9:00 に出発。仲摩殿畑 山に向かう途中で安部さんとすれ違う。安部さんは今日も サポートにきてくれた。登山道を登っていると、何か違和 感を感じる。最近、ヤブ山ばかりしていたせいか、私の進 みたい方向と登山道が一致せず、なんか調子出ない。今日 は駄目駄目リーダーだ。今日のペースは久知良が基準。 しばらく歩いていると全員、このペースに慣れてきたよう



だ。あとは、私が登山道に慣れるだけなのだが、慣れる前に中摩殿畑山に到着。

ここで、宮原班と雨が強くなるようなら途中で下山することもなど打合せをし、稜線道を釣鐘山に向かう。途中で先頭を交代しながら進んだが、尾根に入ると調子出てきた。時々、気づいた事をメンバーに伝える。気持ち良く歩いているとき、現在位置を見失っていないか?広い方、または踏み後のある方に自然と進んでいないか?私が感じたのは、慎重さが足りない。迷いやすい地形を把握していない。今回はたまたまルートが合っていただけで、もう少し地図を見るように心掛けよう。

予想以上に順調に進んでいるが、少し疲労が見え始めた。 林道と一番近づく場所で昼食にした。 安部さんが先回りしていて、 体調の優れない者は引き受けてくれるそうなので、 参加者に大丈夫が確認すると、全員大丈夫との事。

しばらく行くと最大の難所が待ち受けていた。直登困難な傾斜に濡れたフカフカな地面。上の方には岩場も見える。苦戦する者をスリングで引き上げ、進む事も戻る事もできなくなった者には、笠井にロープを出してもらい、アシストする。

全員、難所を脱出できた。ここで一言。今日のメンバーの中で、最も岩場を得意とするのが笠井で、笠井に付いていくと、登れなくなる事があるよと言ったつもりだったんだけど徹底していなかったようだ。無事に抜けたのは良いけど、随分体力を使ったみたいだ。みんな疲れてる。中には体調を崩す者も出たが、見た感じかなり疲労感が漂っている。ガス欠と、脱水気味なのかもしれない。何か食べてゆっくり歩こう。

ゆっくり歩んで14:15 釣鐘山到着。14:50 に下山完了。 登山口で安部さんが迎えてくれた。雨でどうなるかと思っ たが予定した全行程を行けて良かった。

宮原班報告(報告者:井伊)

ちょっときつくて楽しく面白い縦走…ワクワクのため前日眠れませんでした。遠足の前の日の子ども状態です。 9月15日(土)大分駅6時集合、最後になった私を待っていただき5時50分出発。大分駅からは2台9人、道の駅山国で別府の4人、現地集合の2人と合流し中摩殿畑山登山口に到着。

走る車の中で降ったりやんだりする雨にやきもき、残念ながらカッパを着ての登山となりました。8時58分宮原班出発です。

普段は苦手なカッパですが、気温が低かったのか気分良く登れました。登山道のそばで白く濁った景色の中に青々とした竹林、心が洗われるようでした。 9時50分中摩殿畑山登頂。天気が良ければ英彦山が見えるとのこと。 真っ白な景色に英彦山を想像し、彦見岳を目指して出発。途中、鋭角な彦見岳を左手に見つつ元気に歩を進めました。

途中でヤブをさけて林道に出ることになり、急斜面を 飯田さんについて降りましたが、林道に降りて少し行くと 田所さんが山道より声をかけてくださり、田所班は昼食 中、宮原班も雨の中、立ったままでの少し早い昼食をとり ました。

昼食後、田所班と合流し彦見岳を目指しましたが、雨のためフカフカな地面、角度のある山道に体力が奪われ13時やっと彦見岳登頂。睡眠不足、ちょっとしか食べれなか



った昼食などなど反省しながら列の最後尾に移動させてもらいゆっくり釣鐘山に登りました。

14時20分釣鐘山に登頂。釣鐘山からは30分程で下山出来ましたが、待っていただいている安部さんの笛の音に車が近いのだと安心しました。下山後、車の運転手のみ中摩殿畑山登山口まで移動し、釣鐘山登山口まで車移動していただいた後解散となり帰路につきました。

参加者…飯田、鹿島、田所、中島、宮原、久知良、安部、 松浦、清水(道)、清水(久)、木下、佐藤、柳瀬、笠井、井 伊、古野

### 田所深検隊奮戦記

## 第2回ヤブ山歩き研修報告(9月2日) 田 所 歳 朗 (12019)

前回、参加者ゼロだったヤブ山歩き。2回目の今回は参加者4名。田所探検隊にもとうとう隊員が入隊した。隊長はりきっちゃう。まずは装備を確認。ロープ持っている人、スリング持っている人、鎌か鋸を持っている人いずれもゼロ。ヘルメットは指原隊員のみ。地図とコンパスは全員持っているようだが、隊長が用意した地図を見せると、なるほど~と隊員の皆さん感心していた。何が違うかと言うと、予定のルートとルート上にある尾根を全て記載し、迷いそうな箇所をチェックしている。事前準備の重要性を伝えた。次に身だしなみチェック。全員、靴がへたっている。ソールが剥げかけている隊員、靴紐とテーピングで補強し、装備の事前チャックを伝えた。

では田所探検隊出発。道路脇の崖を見上げ、「今日、林道に出るとき、もしかしたらこういう崖を降りるかもしれない。」とロープの必要性を伝えた。まずは前回の終了点の生木峠に向かうが、いきなり藪の洗礼を受ける。露で濡れているので、隊長が露払いしながら藪を抜け、生木峠に到着した。「さっきの藪がもっと長かったら鎌とか必要だよね。」と鎌の必要性を隊員に伝えた。

前回の続きを出発。小さなピークが幾つも続く尾根道。 隊員の疲労具合を見ながら、地形の分かりやすい箇所で、 休憩しながら読図の練習。今日は順調に進み、10時30 分に赤樫山に到着。赤樫山手前の尾根は三股になってい て、地図で見ると紅葉饅頭みたいなので、ここでは紅葉尾根と名付けた。赤樫山の長めの休憩では、久美子隊員にロープワークの説明。クローブヒッチ、ガルダーヒッチ、イタリアンヒッチを説明した。



赤樫山を過ぎると尾根は次第に細くなり険しくなってきた。 危険箇所ではスリングを使う。 トンネルの手前のピークからはたくさんの尾根が延びていて、 慎重に尾根を選

ぶ。尾根を下り終え鞍部に到着。ここがトンネルの上だよ。もう少しでクサギヤブだから頑張ろう。

隊員に少し疲労の色が見えだし、水分摂取量が増え始めた。飲み物の残量を確認し、心もとない隊員には、飲み物を分ける。道枝隊員はまだ余力があるようで、急斜面をぐいぐい登る。

傘が開く前の白いキノコが2つ並んで生えていた。それを見た久美子隊員が「木霊」と命名した。「そうだね。そっくりだね。」

クサギヤブには13時に到着。あまりにも順調すぎて



不安を感じる。間違ってないよな?何度確認しても合っている。では、記念撮影。ここからは尾根を南下し、鞍部から谷に降りて林道に出る。ピッタリと林道の終着点に出た。14時40分下山完了。

そして翌日、隊長の身に悲劇が訪れた。痒い。手の甲と 肘の内側に湿疹が出た。恒例のアレルギー反応である。藪 を掻き分けたせいだな。

#### 隊員の感想

#### 道枝隊員

第2回やぶ山研修(得るものの多かった山行)リーダーが地図を見やすい大きさにコピーして、見てすぐわかるように尾根に線引き、平らな場所での現在位置の確認作業(尾根、谷)尾根が複数ある時の進むべき方向の決定、自分のストックの使い方、シューズの減り具合の助言、めずらしい色々なキノコとの出合い。今回時間にせかされることなく、自分にとってゆったり気分の山行であった事に感謝。ありがとうございました。楽しい山行でした。 清水道枝

#### 指原隊員

今日も色々とお世話になり、ありがとうございました。今回は特に読図の勉強が出来ました。田所さんの迷子センサーが全く働かなかったのは、さすがだなと思いました。私だったら、センサーが鳴りっぱなしで、到底、目的地にたどり着けなかったと思います。

そして、雨上りのせいもあって、このルートはキノコ 天国!色とりどりのたくさんのキノコに会えて、嬉し かったです。楽しい山行でした。 指原里美

#### 久美子隊員

今回探検隊に入隊させていただき大変勉強になりました。特に隊長の読図スキルが完璧で私達を目的地に1

度も迷う事なく導いてくれました。ポイントポイントで読図の極意やヤブ山に必要なアイテム、スリングやロープ等の使い方も聴けて凄く勉強になりました。そして楽しかったです。また参加したいです。田所隊長隊員の皆様ありがとうございました。清水久美子参加者…田所、後藤、清水(道)、清水(久)、指原



# 2018年119日奈山

平成28年、国民の祝日「山の日」が施行されるのを記念して、記念行事を実施しようと当支部が県内の山岳3団体に呼びかけて実行委員会を組織し、九重山での記念集会を実施したが皮切りである。

昨年はこの実行委員会で、「ふるさとの山に登ろう」 というテーマで大分市の霊山で「山の日登山大会」を 実施し、以降毎年県下の各市町村持ち回りでふるさと の山に登ろう」実施しようとの取り決めで今年は別府 市での開催である。

別府では市街地の背後にあり、市民に身近で、誰もが簡単に登れる山である小鹿山に決まった。コースは 志高湖から稜線伝いのファミリーハイクコースである。折しもお盆休みでキャンパーがいっぱいの志高湖 畔をさけて、東山小学校の駐車場からスタートとなった。 別府市報や大分合同新聞や実行委員会で作ったチラシ

# 别病的心理儿で或人

などを見て集まった参加者は、開会式前には100名を 超えていた。

開会式では、大会実行委員長の加藤支部長が「山の日の意、義を感じながら、本日の山登りを機会に山にふれあい、山に親しむ人たちがますます多くなることを期待する」とあいさつ。続いて波多野副実行委員長(県岳連会長)が登山ルートや登山中の注意事項などの説明。

出発は副実行委員長の安東副支部長(アルパインガイドクラブ代表)の先導で始まる。人数が多いので参加者を5つのグループに分けて順次出発である。別府オルレコースを通って志高湖駐車場から、別府市の櫛下林道へと続く車道を進み、峠から稜線の防火帯コースへと入る。狭い山道に子どもからお年寄りまでの長い、長い300m近いい登山者の列が続き、遠目には壮観である。



途中、志高湖から来た道と合流すると広々と刈り開かれた防火帯の稜線道で、ゆるいアップダウンの後ひと きわ急な登りをつめると目的の小鹿山である。

途中からリタイヤした参加者もいたが、ほぼ全員が 山頂に着くと記念の集合写真を撮り、記念品の配布の あと、副実行委員長の長沢労山会長が締めのあいさつ で、山頂で流れ解散である。

大半の参加者が山頂で弁当を開いて昼食をとり往路を下る。午後1時過ぎにほぼ全員が志高湖畔を通って開会式の駐車場へ下山した。さしたる事故の報告もなく、全ての行事は大盛会のうちに終了した。なお来年の山の日登山は同じく「ふるさとの山に登ろう」をテーマに、市町村建制順に中津市で開催が実行委員会の計画である。 (報告:飯田勝之)

# 研修山行報告 秋霧谷 1

8月18日(日)

田所歳朗(12019)

今年最後の沢登り研修。今回は川上渓谷から秋霧谷を登り祖母傾の縦走路を経て尾平越トンネルまでのルート。傾斜がきつく標高差は約750m。私は初めて行く沢なのでとても楽しみである。私にとって沢登りの楽しみの一つが、失敗すること。失敗から学ぶのだが、怪我をするような大きな失敗はしないように気を付ける。今日はどんな試練が待ち受けているのだろう。

8:30 に入渓し沢を登り始める。晴天が続き水量は少ないが、今日は気温が低いので、水は少し冷たく感じる。まずは生野さんが先陣を切るナメ3m、ナメ5mを越えて15mの滝は左岸を高巻き20mの滝は右岸を高巻く。この高

巻きが、水の中を行かないってだけですごく大変。

途中の支点の木はまだ若く抜けるのではとヒヤヒヤする。ここから試練が始まる。支点の若木の上にクラックがあるのだが、私の手の厚みより少し広くて、ホールドする手が頼りない。どうしようか考えているうちに段々と疲れてきた。ヤバイんじゃない?恒例の「うわ~。落ちる~。」の一歩手前。しかし、田所は休む事を覚えた。

スリングを足元の若木に巻きカラビナをハーネスに掛ける。これで少し休める。「生野さん。どこ登ったの?」「そこっ」え〜上手<ホールド出来ないよ。仕方な<腕力発動。休んだから力入るよ。ロープを使って体を50 cmほど引っ張り上げてガバッて登った。

10:00 に大ナメに到着。お~。素晴らしい。コーヒー飲むのに良いんじゃないか?という話になり「カフェ秋霧」と命名した。大ナメを過ぎて先頭を田所と交替。ここからは今まで丸かった岩盤が角張った岩盤へとの変わる。階段状の小さな滝が続き、そして二段滝が現れた。

ここが核心部か?それともさっきの高巻きが核心部なのか?下から見たら以外とルートを確認しやすかったのだが、いざ登ると水の中のホールドを見つけにくく、水温が低いので時間をかけ、小鹿山頂上にて vでくる。迅速に且つ安全に登る事。体が冷えたのでウィンドブレーカーを羽織る。この後の滝は全て同様に安全第一で素早く登る。

11:00 に昼食を取り、ほぼ流れが無くなる箇所で靴を履き替え尾根に上がる。あとは尾根沿いに縦走路まで登るのだか、本当の核心部はここだったのか?ものすごくきつい登りだ。痩せた尾根を木の根を頼りに登り詰める。12:45 に縦走路に出た。

13:30 尾平越トンネル登山口に到着。今日も無事に下山できた。今日はなかなか良かったんじゃないかな?相変わらずクライミングは下手だけどモタツク事が減ってきた。1日を振り返って

- カムがあった方が良かった。近いうちに購入します。
- ビレイ時の制動のかけ方。カラビナ1枚でイタリアン ヒッチ、カラビナ2枚でガルダーヒッチもしくはビエ ンテ、素早く出来るが垂直には向かない。
- いつもは木を使うことが多いが岩を使ってビレイする 事が出来た。

メンバーが固定化されてきているので、誰か新風を吹き込んでくれないかな?

参加者…安東、生野、田所 その2)へつづく

#### 研修山行報告

秋霧谷 2

8月18日(日)

田所歳朗(12019)

大分での生活も残り1ヶ月。やれる事はやっておかないと。と言うわけで秋霧谷に復習に行った。今回は矢上さんと指原さんが来てくれた。まずは前回、安東さんに押し上げてもらった2mくらいの段差。何とか一人で登れないかと隙間にナッツを挟んでスリングを掛け、足を乗せると「あ~れ~」クルクル回って登れない。

この作戦は失敗だった。また別の作戦を考えないと。ここで指原さんが8環を落として紛失した。カランカランと乾いた音が虚しく聞こえた。次に苦戦した若木のクラック。今日も大苦戦。ここで使おうと思ったトライカムを落としてしまってショック倍増。仕方なく大きく高巻いて、トップロープをセットする。まずは矢上さんが登る。上手く足を掛ける所を見つけて登ってきた。

私は一旦懸垂で下まで降りる。途中でセットしたスリング等を回収していたらトライカム発見。ヤッター元気が出てきた。指原さんが登って、最後に私が登る。さっき矢上さんが使った足の置き場を使い、前回より深くクラックに手を突っ込むと、良い具合に石が挟まっている。なんだ~カムとか要らなかった。最後はガバッでよっこいしょと登りきった。

次第に雨が強まってきたので、大ナメの入口でお茶して 引き返す。懸垂下降でドンドン降りるよ。もう一度探した ら8環も見つかり、良かった、良かった。

ところで、東九州支部のみなさんは懸垂下降は出来ますか?いざというときに出来た方が良いですよ。垂直の壁を降りろとは言わないけど、練習してた方が良いと思います。未経験の方は安東副支部長に相談してみましょう。では、また来年、秋霧谷に挑戦しに大分に来ます。参加者…矢上、指原、田所

喜寿お祝い登山会報告

飯田勝之(10912)

平成30年の喜寿お祝い登山会が去る9月23日(日)に扇ヶ鼻で行われた。今年の1月1日から12月31日までに喜寿を迎える支部会員が対象で、今年は例年にな

く多く9名の会員・会友が対象である。

当日午前9時、集合場所の牧ノ戸峠に集合した参加者は、該当者8名を入れて総勢34名で、沓掛山経由のルートで登る組と、瀬の本から登る組とに別れて出発。瀬の本組は車3台に12名が分乗して6km下った瀬の本高原の登山口へ移動し、林道歩きでスタート。10分余りで山道になり、アセビの多い林の中の急斜面を登っていくと、やがて落葉樹に覆われたほとんど平坦な稜線道となり、緩斜面を登ると林を抜けて右手に広い笹野が広がって一気に展望が開ける。笹野の中の小さな踏みあと道を行くと4等三角点のある岩井川岳(1522.0m)だ。

まだ訪れたことのないメンバー4名がそこへ向かうが、残りのメンバーは本隊が待つ山頂へと急ぐ。再び樹林の中に入り、急斜面をジグザグに登っていく。このルートは通る人が少なくて、とても登りやすい道だったが、近年利用者が多いためか、道がえぐれてずいぶん荒れて歩きにくくなっている。岩井川岳分岐から30分余りで、広い扇ケ鼻の山頂部の一角に着く。露岩の多い草野の向こうには牧ノ戸峠から登ってきた本隊がすでに到着していて、我々の登ってくるのを待っている。

11時10分到着。やや遅れて到着するメンバーを待って、途中でリタイヤしたメンバーを除いて32名が扇ケ鼻山頂に揃う。揃ったら恒例の慶祝儀式。スパーリングワインを景気良く開けて、小さなコップで乾杯。



あまり登る人のないこの山頂は普段は静かで、ゆっくり360度の展望を楽しめるところだが、今日はまれに見るにぎやかさで、ほかの登山者はいったい何事かと驚きの目で見ている。

全員集合の写真を撮って、あとは思い思いに弁当を開いて昼食。そして12時30分に山頂を後にした。下山は瀬の本から来たメンバーは、同コースを下山希望するメンバーと入れ替わって沓掛山経由で下ることとなる。

わずかに秋の色づきを見せ始めている九重連山のやさしいたおやかな山並みの眺めながら、ゆっくりと下山する。午後3時はぼ全員が牧ノ戸峠へ下山集合で解散となる。なお、希望者20名が残って別途祝賀の懇親会。場所は吉部のくぬぎ山荘を貸し切りだ。筌ノ口温泉で一日の汗を洗い流したあと山荘に戻り、遠江女史手造りの『遠江鍋』で舌鼓を打ちながら、にぎやかに夜更けまで宴が続いた。

喜寿慶祝者(敬称略)…大林正彦、野村芳雄、菅 勲、中島 洋祐、土屋多喜子、松村豊寛、吉田邦子、橋本桂子(欠 席:薬師寺正憲)

参加者…加藤、首藤、飯田、木本(義)、園田、下川、石神、渡辺(千)、渡辺(和)、塩月、桜井、宮原、工藤、若月、神田、尾家、安部、石川、遠江、芝田、秋吉、清水(道)、清水(久)、木下、平原

#### 個人投稿

#### ペンリレー

|・第30回

### 山と人との出会

#### 鹿島正隆(11546)

高校時代、薄暗い下宿の部屋の中で読んだ井上靖の「氷壁」に魅了され、山登りしたいと思うようになった。司馬遼太郎のNHK 特集「シルクロード」はテレビを見て全巻買って読んだ。映画「植村直己物語」は大学卒業後だっただろうか。

大学では山岳部に入部しようと決めていた。山岳部の部室に足を運ぶが、部員にはな

かなか会えなかった。連絡が付かないので黒板に伝言を書いてようやく先輩に会うことができた。40年前もすでにワンゲルは部員が多く華やいでいた。しかし、自分は雪山や岩登りがしたかった。初めての山行は、08に連れられて鶴見岳を縦走した。5月の連体には大崩山合宿だった。その後は、先輩方も忙しいようで、なかなか山へは行けなかった。

期待外れの山岳部に私は一度退部した。しかし、山への思いは断ち切れずもう一度入部した。そのころよくサニースポーツへ行っていた。12月の暮れ頃だったか、夕方店に行くと先輩がいて、今から伯耆大山に行くというので、その晩、私も夜行列車に飛び乗った。そのころ安東桂三さんにも出会った。そして大分ROCに入れてもらい、高崎山によく練習に行っていた。ヘルメットはバイクのヘルメットを改造したものを先輩からもらってかぶっていた。比叡山、行縢にも数度連れて行ってもらった。阿蘇の松ヶ尾谷で氷瀑も登った。

大学の講堂で1人ザックを背負って山の格好で部員を募集したこともある。後輩ができ、祖母・傾山を縦走したり、九重山系で合宿していた。冬は伯耆大山で合宿し縦走もした。アルバイトをしては山の道具を買っていた。 山行の前にはよく加藤英彦さん宅を訪れていた。山の歌をよく教えてもらった。3年生の夏に後輩2人と初めて剱岳、立山を登った。槍ヶ岳まで行く予定だったが五色ヶ原で低気圧が近づいてきたため、黒部に下山した。泥水で飯を炊き食べた。11月、先輩と大分からレンタカーで八ヶ岳、富士山に登り帰ってきた。

その後、関東の大学院に行き、せっかく関東に行くのだから山に登ろうと道具を持って行ったが、結局、3年間で筑波山に数度登っただけだった。

大分に帰ってきて、またサニースポーツに顔を出すようになった。西孝子さんから薦められ日本山岳会に入会した。 夜、一緒に桑原山や障子岳に登ったりしていた。西さんに今西錦司先生からの手紙を見せてもらったことがある。それには「運命に逆らうすべなきも、運命に屈するを欲せず。これを運命と戯るるという。」と書かれていた。竹田高校で女子の山岳部をもって初めて競技登山というものを知った。舞鶴高校では生徒を連れて霧島連山を縦走した。大分豊府中学校では、梅木秀徳支部長に講演をお願いした。演題は「おおいたの遺産 ~自然、人、文化~ 次代を担う若者へのメッセージ」だった。

これまでは、仕事と子育てで、合間をぬって細々と単独行を楽しんでいた。数年前、実家の国東に帰り「峯道ロングトレイル」を知り歩いた。国東半島は1300年の仏教文化の歴史と共に修験道の山々であった。中山仙境、大不動岩屋、岩戸耶馬と変化に富んだ魅力ある山々であることを知った。

退職を前にして、もう一度山に登りたいと思うようになった。

最後に、これまで出会えた先輩方へ、感謝の気持ちで一杯であることを書き留めておきたい。

#### より安全な登山のために

NO30

#### 『JAC 人口ピラミッド、他』

安東桂三 (9193)

9月27日、JAC東九州支部事務局長の飯田さんから資料が転送されてきた。本部から各支部へ送ってきた資料の転送で、それは『平成30年度支部合同会議議題案』、『会計報告と寄付の扱い』、『合同会議(アンケート)』であった。ページ数は131ページ。JACの諸問題を解決する合同会議の議題なので、興味をもってかつ問題意識をもって読んだ。いくつかの項目につては省略し、問題のあるもののみ支部の皆さんに紹介しよう。

登山計画書の提出状況 全支部で1月~8月の間に毎月70.3 通ほどが提出された。当支部は、毎月1通の月例山行分を提出していた。個人会員の提出は、毎月134.9 通となった。JACは約4700名在席だが、この約130通の数は、3い提出数か少ない数か、少し検討と思う。ちなみに当支部からは、7月から8月に計3通のみ。

会員の増減、平成元年より昨年(平成29年)までの毎年のデータが掲載されていた。平成元年より平成13年までは、数のばらつきはあるが会員は毎年増加していたが、平成14年より減少に転じ、毎年20名から160名ほどが減少している。ただ、平成24年には減少する中にあって5名ほどの増加となった。私の記憶によると、この年にJACが発行する『山』に、減少は止まり、増加に転じたとの記載があったと思うが。平成25年よりまた減り続き、昨年(平成29年)は、136名の減少となった。

この 136 名の数の意味することは何か?加入もあれば退会もあり、その結果がマイナス 136 名と言うこと。昨年は新人会員が 155 名、復活会員が 5 名。逆に物故会員 82 名、退会者 181 名、除籍者 33 名。退会者の 181 名は、平成元年からの統計上最大の退会となった。各人の考え、経済的、体力的、年齢的、いろんな

状況があるが退会が多いことは、組織の弱体化を始めとして運営上の困難もある。 ただ人数が多いだけも考えものと思う。

在席会員年齢構成 過去8年分のデータがあった。 昨年度の分を解析すると、39歳以下いわゆる青年までは全会員に占める割合が4.84% 40歳から69歳までが40.61%、70歳以上が54.55%。平均年齢は、68.27歳。

我々のJACは、半分以上が70歳を超えている。これから、JACを託さないといけない39歳以下の青年はわずかな数。若ければ良いというわけではないが、会員全員が知っておく数字と思う。我が国のAさんではないが、『一億総活躍』ではないが、『JACも総活躍』有かそうすべきか。

支部別会員動向 各支部の会員数のデータがあった。九州内の5支部を見てみると、平成27年末から、平成29年末の2年間に、すべての支部で会員減少。多いところで、福岡支部の5名減少、宮崎支部の4名減少。当支部は1名減少で九州内では一番少なかった。

年齢構成 各支部の年齢構成があった。九州内の5 支部の平均年齢を見てみると、高いところで福岡支部の74.48歳、宮崎支部の72.65歳。当支部は、64.67歳で、一番低い年齢となった。JAC総会員の平均年齢は、68.19歳。

紹介したい事柄や、数字や、意見は、多くあるが、 紙面の都合で省略。読みたい会員会友は、飯田事務局 長に問い合わせ願いたい。

私の思ったこと 我々の日本は少子高齢化、財政赤字、かつ最近は災害多く多くの問題を抱えている。普通一般的には自分(個人)の幸せが一番、次に妻や夫、あるいは子や孫、親の幸せを願う。そして一族、隣保班などの地域。市や県、そして我が国の繁栄。世界の平和と繁栄。自分に近いところから、遠いところへ。山では自分の個人山行、数人の仲間、組織の山行、組織も小さな支部から、全体を考えてのJACとしての集団。

最初の個人山行がうまく行かなければ、仲間のことは手が回らない。組織はその個人の集まりだから、そ

の個々が正しい登山をする、正しい技術を発揮するのが良いと思う。自分の山(安東の山行)の事も、反省するが、データをみて当支部は、どうしたら良いかを考えると、難しく答えは出ない。

支部の生き方(山行の方針、運営の方針)が各支部で異なり一概に言えない。活動している数支部をみると確かに若い。平均年齢の若い支部、群馬支部、東海支部、広島支部、いずれも平均年齢は65歳を切っているが、63歳というところ。群馬は会員が47名だが、その内49歳以下は6名。東海は354名で72名。広島は167名で29名。

支部での冬の北アルプス山行もこなし、クライミングも行い、時にはネパールなどに出かける。高いところ厳しいところがすべてではないが、山にはハイキングからクライミング、冬山、高所登山、といくつものジャンルがあり、ハイキングだけでは悲しい限り。それぞれに得るものがあり、多くの楽しみがある。多くの事を知り、多くの山に登り、多くのことを考え、と思う。

### 『凶羝貮』

#### 安部可人 (友11)

「遭難」の条件の一つ「人の言うことを聞かない 人」とある。この記事や安東桂三指導を読まない人で す。忘年会の重廣恒夫氏講話は「最近の遭難の一番は 道迷い(4割)」という。迷って焦るから殆どが谷に入 り、さらにパニック状態(panic 恐慌・落ち着いて行動 できない、気が狂う)は二次災害「滑落・転落」とな る。遺体は主として谷間です。無鉄砲にも谷に下る装 備なのか考えない。迅速であるべきだが、家人が慌て て救助要請したら「遭難」、判断が難しい。「有名な千 葉の団体遭難過剰報道はマスコミ遭難だ」と岩崎元郎 さん。ビバーグしただけの GPS 不携帯らしきリーダは 気の毒だ (ビバーグの練習必要)。若い時、徳澤園から 長塀山高度差1900を登ったが「長塀尾根」は幅広 で迷いやすいとあり、読図もできない無謀登山だった (此処も遭難例あり、何度か同じ場所で迷っている)。 今は無謀登山者だらけだ。(今年の事例から) 中岳で支 部長と別れて白口岳へ向かう、コース説明をされたが

事前に自宅で地形図を頭に叩き込んでいないから間に 合わない。分岐点で左の「白口岳」よりも直進する 「鳴子山」の方が道がよかった(典型的な道迷い)。コ ンパス携行せず見もしない、北へ行かず東へ、実にお 粗末(研修の為公開当然失礼)。(道迷い対策) 簡単に 迷いますね。登山者の多い正規のルート、整備された 「日本百名山」などは安全、それに慣れてくると読図 できなくても帰れると自信、今更勉強はいやじゃ。基 本を研修するには年を取りすぎて意欲がない、無理も ない、60年も歩いていれば自ずから悟りがひらける が、その時間がない、怖いのは「もう山を知ってい る」と錯覚・慢心、謙虚さがほしい。少しは読図・コ ンパスに関心をもつべき(実はこれが大変面白い)、体 力は十分あるから「木浦鉱山」の「研修山行」に参加 すべきであった。(結論) 松浦・丹生さんのように、対 策の一番はGPS。霧や吹雪でも使えるでしょう。予想 迷い点(チェックポイント)の座標を打ち込んで、帰 りも通過を確認して行けば絶対迷わない。等倍「地形 図」と地図閲覧で取った「拡大MAP100~200 m」の両方を安部携行、GPS 使用者は「読図」も上達 する。重廣さんの「GPS64Sj型」(販売停止)最高 機種は昔の半額、本当はハンズマンの安価で伝統の

「アナログ高度計」があればかなり正確に「現在地」 が分かる(田所実行)。20年間ぐらいそれで十分だっ た(最近GPSの使い方分からず遭難例あり)。田所さん は生木峠縦走で迷わず、完璧に山を知っている。「道迷 い」で最悪のよくあるケースは、山頂から下山の取り 付き点がわからない(椎葉の国見岳遭難)。主稜線から ヤブ支尾根への取付点分からずの動揺・狼狽は何度か ある (GPS 携行でも注意)。記憶と紙テープ (回収)・ 葉っぱのしるしで解決。「楽しい」だけで頭が働かな い、考えて登らない、TVの子供はなぜか皆「楽しかっ た」。イワシの群れはどうしても本能的について歩くだ けだ。それも仕方ない。4月23日単独行でお会いした 渡辺パーティー6名のようにアケボノツツジの「諸塚 山」とか人が多い山限定で行くことだ。絶対独りでは 行かない。遭難者の反省「ライター・非常食・行動食 (不足)・防寒具・ヘッドライト・コンパス・地形図・ ツエルト・(紙) テープ・発煙筒」とあった。細引き携 行(安心)はツエルト張りにも必要、7mm X15m ロー プ・カラビナ、テープスリング (簡易ハーネス用)、道 なきヤブの山城必携です。竹田入田の「津賀牟礼城」 では、夕暮れ迫り突然やせ尾根が切れた「堀切」。用具 のおかげで5mを懸垂下降できた。(情報)

COCOHELI 入会金3000円(発信機貸与)+年会費3650円(山渓店扱い)、遭難時会社に連絡すれば、会員証(発信機)の電波を探知して救助組織へ連絡してくれる(又、GPS携行者は「現在地の座標」を保険会社に連絡)。行方不明の「失踪者」の「死亡認定」には7年、保険が受け取れない、「解雇」され退職金も受け取れないだろう

## 私の無名山ガイドブック(第70回) **ネデラ目 - クモノフオミー 上海ドリ** (10912)

#### 新開・(535.3m)

北川の支流の田代川と番匠川とその支流の上津川に 囲まれた、酒利岳を盟主とする山塊の北の端の小稜線の 一つがこの峰で、佩楯山、大山と対峙する稜線の鼻にあ たる。付近の山はほとんどがスギ、ヒノキの植林地であ るが、この稜線は照葉樹の大木の多い自然林である。

県道三重弥生線と県道野津山部線の松葉の分岐から 三重に約2.5 km、第二新開橋の手前に南東の谷添い に登る林道がある。これを入ると、県道から15分強(7 00m) で三叉路を右に入り、10分弱(600m) で やや広い谷間に達する。ここまでRV車なら可能。その 100mほど先の林道両側にはミツマタの大群落があ る。広い谷間の右手(西)はスギの幼木林で、その際に わずかに尾根状の斜面があり、直ぐ上に大きなカゴノキ が見える。この尾根を直登するのが近道だ。カゴノキの 横を登り、照葉樹の多い天然林の急斜面をひたすら直登 していくと、林道から20分足らずで稜線上の小ピーク に達する。これを右(北)にやや下って広い尾根を緩く 登っていくと5分足らずで4等三角点がある山頂に達 する。三角点のまわりはイス、クリ、カシ、クヌギ、ナ ラ、ヒシャカキなどが見られ、伐開された山頂部から佩 楯山、米花山、遠く阿蘇、九重の山並みも見られる。

#### 矢ノ本・(731.5m)

新開と同じ酒利岳を盟主とする山塊の北に連なる稜



線上の最高地点で、酒利岳と対峙するピークでもある。 県道三重弥生線と県道野津山部線の松葉の分岐の9 00mほど手前にある津々良のバス停から南に上る林 道を入ると、葛蘿を過ぎて県道から約1時間20分(3 km)で三叉路があり、左(南)に延びる林道を進む。 三叉路から約40分(1.9km)で三叉路があり、右 にさらに350mほど行った地点がとりつきによい。こ こまで小型RV車なら可能。スギの植林地に入り2分ほ どの登りで稜線に達し、稜線に沿ってシカ避けのネット が張られた際を左に登れば、やや急な登り斜面で、植林 地の際のアセビやクロキの間を登れば、数分で山頂に達 し、4等三角点は最高地点から8mほど北の斜面のカヤ に埋もれている。三角点のまわりはスギ林であるが、北 側斜面はカヤ野となって展望が開けている。

#### 上津川・(686.4m)

同じく酒利岳を盟主とする山塊の北に連なる主稜線から幾つも分派する小稜線の上のピークで、ここより北東へ次第に高度を下げている。この稜線にはアカマツが多く、スギ、ヒノキの植林地と混在している。

県道三重弥生線と県道野津山部線の松葉の分岐の9 00mほど手前にある津々良のバス停から南に登る林 道を入ると、葛蘿を過ぎて県道から約1時間20分(3 km)で三叉路があり、左(南)に延びる林道を進む。 三叉路から約40分(1.9km)で三叉路があり、これを左にほぼ水平に(30分)1.3kmほど行ったところが三角点へのとりつきによい。ここまで小型RV車なら可能で、植林地の中をまっすぐ登れば直ぐに稜線で、稜線を左(東)に緩く登れば天然林の中の鈍頂に達し、やや広い樹間に3等三角点がある。山頂部はアカマツの多い混交林で、標石のまわりはアカガシ、クロキ、ヒシャカキソヨゴ、アセビなどにハリギリなどが見られる。

### 初めての尾瀬登山

宮原照昭 (15683)

去年9月関東日光の白根山や男体山・皇海山など登山を成し遂げた帰りに、来年は自分で計画書作成して小数で登りたいと思い、7月に櫻井さんに声を掛けたら8月終りに登れると返事あり、それからちょっと時期遅いが尾瀬に決めた。どのコースから入山するか検討して日本百名山の燧ケ岳と至仏山の2山登るため沼山峠に決め計画書作成した。

1 日目 8月25日、東武鉄道の会津高原瀬口駅からバスで沼山峠に16時30分着いた。小雨だが直ぐに出発し、尾瀬沼の長蔵小屋に18時10分着。聞くと明日は曇り時々雨の予報で早出の為19時30分就寝した。

2日目 朝早く起きたら何人か、暗いうち出発しているので、私たちも朝食を食べ6時30分頃出発した。尾瀬沼沿いを7時に分岐から長英新道に登って行く。ぬかるみの多い登山道で、尾根に出れば開けた広場に着く。8時40分4合目から傾斜がきつくなり急な階段上り切ればミノブチ岳9時30分。そして「俎嵓」頂上に10時着。廻りはガスが掛かっているが、急に晴れて尾瀬沼や泊まった長蔵小屋が見た。まだ10時30分過ぎで「俎嵓」を降りて「紫安嵓」に11時に着く。

他のグループは昼食をしているが、天気が悪くなる前に下ることにする。見晴新道をピッチ上げて下山して行くが段々天気が良くなってくる。登山道はぬかるみで登山靴が泥だらけ。見晴十字路を13時30分通過で、木道を歩いて龍宮小屋に14時30分着く。

今夜の宿泊者は私たち入れて二組で、山小屋アルバイトの若い人と、尾瀬の話とか今までに登った山など盛り

上たしのはかき日予るはき降内仏がし仏部いっ。雨で明く雨な「」っか山に雲て明のあ日起のい至登



るために20時に就寝した。

3日目 朝起きたらまだ雨が降っていないので早く朝食を済ませて6時45分出発。木道を歩きながらまだ咲いている花と景色を撮りながら山の鼻に8時に着く。至仏山への登山道は木道歩きだが、壊れているところもある。頂上付近は大きな岩を乗り越えて11時頂上に着く。

鳩待峠から登って来たグループが多数いる。天気は 段々良くなっている。しかし至仏山のから下る道は「蛇 紋岩」で滑るので慎重に下山して13時「小至仏山」に 着く。それからゆっくりと高度下げて、2時30分に鳩 待峠の鳩待山荘に着く。ここも宿泊者は私達入れて2組 だけだ。落ち着いたらビールを飲み、お土産買いそして 夕食で3日間を振り返り満足感でぐっすり寝る。

4 日目 朝起きたら雨が降り出した。運が良かった。朝の 5 時過ぎからバスと車で尾瀬登山に来たが、雨が強く降っているため帰る人もいる。私達は8時30分雨の中バス停で待っていると、タクシー運転手に誘われて、帰る人のグループと一緒に乗り合わせで上毛高原駅に向かい、予定より早くに10時過ぎに着く。それから新幹線に乗り羽田空港には計画書より早い午後2時40分に着き、それから新幹線に乗り羽田空港には計画書より早い午後2時40分に着き、レストンで打ち上げだ。

今回の尾瀬登山で登山計画書・飛行機予約・山小屋予 約・尾瀬までルート・帰りのルートなど作成したのは初 めて経験で何回も練り合わせ作った。来年は北関東とか 南アルプスなど夏休みを利用して自分で計画書を作成 し2人で行きたいと話し合った。

### 大分百山完登

(No8)

#### 大分百山を完登して

久知良美登里(A-17)

夫に、ホルトホールで開催される日本山岳会東九州支部主催第4回登山入門教室に行こうと誘われ、体力の衰えを感じていた私は二つ返事で賛成。座学に加え実践教室もあるとのこと、今までスポーツもしたことがなく登山の経験もない私。皆さんに迷惑をかけないようにと夫と二人で由布岳に登るが、残念なことに頂上まであと少しの所で下山するはめに。

それからは、少しでも体力をつけようと、参加できる山行にはすべて参加するようにし、一昨年から百山を完登された方々と一緒に登らせていただくうちにしぜんと数も増え、もしかしたら私も百山登れるかもしれないと思うようになる。さらに頂上での「大分百山〇〇座目〇〇山万歳」という支部長の声を聞くたび心地よく、「私も来年は百山をよう目指そう」と支部長に宣言。

それからは、皆さんと同行させてもらい、同行できないときには夫と二人で数を重ね、一度だけ一人で登った山「鎮南山」ついに99座目となる。そして昨年11月25日皆さんとともに100座目の岳滅鬼山へ、ついに制覇です。 そのあと由布院に移動し、文理大の研修施設に泊らせていただき、沢山の方々に盛大にお祝いしていただきました。 皆さんに支えられての百山完登、支部長さんはじめ、一緒に登っていただいた方々、お祝いに駆けつけてくれた皆さん、本当にありがとうございました。これからも教えていただいたことを活かしながら、山登りを続けて行きたいと思いますのでよろしくお願い致します。

#### 支部からの報告

### 本部山行委員会

 『くじゅう山花の山旅』の報告

 工藤吉子 (15689)

「花の山旅・九重連山」 JAC本部山行委員会とのコラボ山行に参加。

1日目(筋湯~涌蓋山~筋湯)

6月8日大分空港に到着組や前夜別府宿泊組などが八丁原ビュホテルに着き、荷物を置いて13時前にひぜん 湯登山口を雨の中出発。登り始めると雨も小降りになり 空が少し明るくなってきた。

所々に少しだけミヤマキリシマの花が咲いていると「ワアーきれい」としきりに写真を撮っている。こんなものではない、明日は山がピンクと説明してもしきりに写真を撮っている。

15 分程で頂上という所まで来ると風が強くなる。頂上で三角点を探してタッチ。360 度の絶景が見られないのは残念だが頂上に立つことが出来てよかった。風やガスが酷くなってきたので下山を開始する。途中で薄日も

差してきたがどろどろ道を歩いたので靴は土で真っ 黒になっている。登山口の洗い場の温泉で靴を洗う。

18 時より広間で懇親会。司会は美声の桜井さん、加藤 支部長の挨拶。ホテルのオーナーの甲斐さん差し入れの お酒を頂く。美酒に馬刺し・豊後牛の焼き肉を美味しく 食す。歌や会話がはずみ予定の時間を大幅に過ぎての楽 しい懇親会であった。

2 日目(牧ノ戸登山口~久住山~御池遭難碑~中岳~白口岳~鉾立峠~法華院温泉)

玄関前で記念写真をとり分乗して牧ノ戸峠へ出発、予定より30分早い。最初の展望台を過ぎるとピンクの山が目の前に何処を見てもピンクと感激の声。ピンクをバックに撮影会。昨日山がピンクと言っていたが、オーバーに話していると思っていた本当に山がピンクこんな広大な景色の山・・・すごい来てよかったと、写真を撮る時間が多くてなかなか前に進まない。

久住山に到着、頂上から見渡す山はピンクで覆われて、 空の青と何とも言えないコントラスト、何度も登ってい るがこのように綺麗な事は今まで一度も無かった。

2山目の中岳に向かう。15分程度で山頂。そのあと3

山目の白口岳。天気がよいので全員で鉾立峠へ向けて下山する事になる。途中道がどろどろの所や荒れた足場の悪い急斜面など、声を掛け合い互いに助け合いながら峠まで下りる。休憩後は法華院温泉を目指す。部屋に入り入浴をして食堂に集まり宴会。夕食後大分の男性の部屋に集合して二次会だ。

3日目(法華院温泉〜大船山(中止)〜坊がつる〜雨が池〜越長者原〜周辺散策)

朝目覚めると雨脚の音がする。外は真っ白な霧である。 山行会の皆さんの話し合いの結果で登山は中止して下 山する事になる。足場の悪さと帰りの時間のことを考え ると今日の天気では無理をしないほうが良いと判断。雨 具を着けて法華院を後に下山を始める。右手にピンクの 山々に分れを惜しむように眺めながら歩く。途中に白い 美しいオオヤマレンゲが咲いていて感激し写真をとる。

長者原の駐車場に着くと、そのあとは川端康成の記念 碑や九州電力地熱発電所の見学などを案内して筌の口 温泉で入浴しさっぱりする。最後は長者原の駐車場で解 散会を行い一連の花の山旅は終了。

この山行受け入れのため打ち合わせを行い、数回山に登り検証して準備を行ったが、花がさいていて、2日目は先ず先ずのお天気に恵まれ、参加者に満足の行く花の山旅を案できて、事故や怪我も無く終了した事に安堵した。

参加者…加藤彦、宮原照昭、桜井依里、尾家暁生、下 川智子、河野達也、工藤吉子、木本義雄

山行メンバー…征矢三樹(東京)・長島 泰博(横須 賀)・中坪皓(東京)・大畑博子(札幌)・金子由美子 (札幌)・杉山美智子(岐阜)・柳川しげよ(成田)・中 原三佐代(日野)鈴木惠子(大阪) 司会 永田理事 1)会長挨拶、小林会長、要約、この会議の目的は支部交流にある。財政が思わしくない中どうすればよいか、公益社団法人として何をなすべきか、活発な意見をだして有意義な会としたい。

2) 会務報告 記念事業委員会報告 120周年記念事業の推進組織、アンケートの集計結果の報告、新日本山岳誌の発行、グレートトラバースの説明あり

支部助成事業の報告、特別事業補助金に東九州支部の青年部活動育成事業が載っている

登山計画書提出状況の報告 提出が制度化されて初めての年度での状況報告、さまざまな問題点か浮き彫りにされてきているのか、まだまだ模索段階なのか。支部ごとにかたよった感じの数字があらわされている。特に個人山行の提出状況が少ない。

3) 入会者の増強に向けて、昨年度退会者181名除籍者33名入会160名したがってマイナス54名で減少に歯止めがかかってない状況だ。

支部ごとの会員動向 東九州は1名減で全国では15 8名減、平均年齢は64.67歳全国平均は68.19 歳これは全国でみても4番目に若い支部構成である。

支部登山教室の実施報告 事前のアンケート結果の報告とその集計内容の説明あり。

全国で実施している支部が22ありしていない支部が 11、その教室の内容についてはいろいろ角度から分析 した一覧表があり。

特に教室の開催をどのように告知しているかとの問い にうちの支部が指名されたので「会員に地元新聞の記者 が在籍しているため掲載を依頼しており、その記事の効 果で受講生が集まっている。」と報告した。

教室が会員勧誘に役立っているという報告の支部が多いことがわかる。この教室の統一されたかたちのマニアル本部で早急に作成することが急務であろう。そして全

### 支部合同会議報告

加藤英彦 (8765)

平成30年9月29日(土) -30(日) 13時開会場 東京都千代田区 婦人会館「プラザエフ」

全国33支部より支部長、事務局長。本部より会長、副会長、理事7名

各委員長4名、各委員10名、事務局2名 総勢93名



支部での登山教室の開催が望まれるところであろう。

4) 安全登山について 遭難における緊急連絡先の必要性と登山計画書の重要性。具体例として8月15日に実際起こった例を参考にした説明があった、上高地山研に泊まった会員が翌日単独で出かけて行方不明となり17日後に遺体で明神岳にて発見された。計画書の未作成、未提出、山岳保険加入有無の確認不能、非常時の緊急連絡先不明、携帯電話電源OFF、家族との事前打ち合わせ不足、等の問題点の多い遭難事例となった。山研宿泊者の今後の把握、課題となった事例である。

#### 遭難事故における組織編制について、

ヒヤリハットの事例提出依頼 会員の体験のなかでヒヤッとしたことや、ハットしたことの体験を文章にしてお知らせください。山での遭難事故の予防とそのための啓発活動にしたいという目的です。皆さんのなかでこういった事例のある方は本部へ報告してください。具体的な内容書き方等は事例があります。問い合わせを、健康登山塾を(群馬支部で立ち上げ) 私が提案して今年から始めた霊山水曜登山会がこれに当たるようです。

「山の日」。の活動について。8月11日の山の日を考えて活動、行動をおこそう、今年は15支部が活動した報告があがっている。全国の山の日式典は今年は伯耆大山であった、来年は山梨県、そして再来年2020年のオリンピックの年は大分県での開催が決定されたと発表された。それは大変だ。支部創立60周年の事業が控えている、そして同じく2020年に宮崎支部で全国支部懇をやってくれとの要請があったと、その日隣の席の宮崎支部から聞いたところである。

ここまで会議はすすみ6時となって終了、そのあと懇親会となった、例によって重廣副会長に年末の忘年山行を約束した。山行委員長から今年の6月くじゅうでの本部とのコラボ山行のお礼のあいさつがあった。「山の日」実行委員長から再来年の山の日行事についての話があった。台風21号が近づいている中、翌日は朝一番の新幹線に飛び乗って帰分した。

### 安全登山のための二つのテーマ

支部合同会議報告 その2

#### 飯 田 勝 之 (10912)

平成になって山岳遭難が増加の一途をたどり、昨年の遭難件数は2583件、遭難者は人、死者・行方不明者は354人と、統計を取り始めて最多となり、10年前の1.7倍となっています。こうした状況を踏まえて9月29・30日の支部合同会議では登山計画書の提出の励行と、新たに「登山ヒヤリハット」の提供が提起されました。

### 登山計画書の重要性

会議では、上高地の山研に泊まった会員が登山計画 書を出していないまま入山し遭難死した件で、計画書 で予定のコースや本人の携帯番号・家族の連絡先など が分かっていればもう少し早く対応できて、もしかし たら死に至らずにすんだかもしれないという事例を あげ、登山計画書提出の重要性が改めて強調されまし た。そして各支部からの計画書提出状況が一覧表で示 され、まだ不徹底な状況であり、今後各支部で一層の 徹底が必要とされました。

登山計画書は所属する団体やクラブ、地元警察、留守家族、登山口などに出したり置いたりすりものだが、日本山岳会は昨年12月に遭難対策規程を改正し、全会員に対し登山計画書の提出の励行と、支部における計画書受理検討機関の設置を規定しました。

東九州支部はそれに準じて定期総会で支部遭難対 策規定を定め、支部会員の計画書提出の励行と計画検 計委員会設置を規定しました。

その内容はおおむね下記のとおりですので、皆さん 方には改めて共通の理解に立って励行して下さい

#### 登山計画書の提出のとり扱いの規定

- ・支部の行事に関する山行(月例・忘年・調査・記念山行等)は、その都度のリーダーが登山計画を作成し、支部の検討委員会に提出し、最終計画書を事務局から本部遭難対策委員会へ提出するとともに事務局に保管する
- ・会員の個人山行は、個人またはグループのリーダーが登山計画を作成し、支部の検討委員会に提出し、最終計画書はリーダーが本部遭難対策委

#### 員会へ提出し、事務局へも提出する

- ・準会員・会友の個人山行は、個人またはグループ のリーダーが登山計画を作成し、支部の検討委 員会に提出し、最終計画書を事務局へ提出する
- ・ 遭難対策規程に基づく計画書提出は、支部会員 (会員・準会員・会友)の行う全ての山行に適用 するが、他の団体やツアー登山参加など、支部会 員が主体的でない山行への参加は適用を除外す る。
- ・計画書提出期限 日帰り登山等の場合は遅くとも出発の3日前まで。3日以上の縦走の場合は出発の6日前まで

#### 「登山ヒヤリハット」の募集

日本山岳会はこれまでにも組織的に安全登山の普及活動を行ってきましたが、支部合同会議で新しく「登山ヒヤリハット」の事例提供の依頼が議題にあがりました。会員の貴重な体験をもとに、山での遭難事故の予防と、安全登山の啓発に活かしていこうというものです。

支部の役員会ではこの提起を受けて支部会員の皆 さんから、山でヒヤッとしたことや、ハッとしたこと などの提供をお願いすることになりました。

内容はおおむね次のような事項です

#### 考えられるヒヤリハット

気象(雨・風・雷・雪・ガスほか)

自然現象(崖崩れ・落石・倒木・増水・雪崩ほか) 地形(急斜面・崩落地・やせ尾根・岩場・雪渓ほか) 動植物(クマ・ハチ・ヘビ・ダニ・有毒植物など) 準備(登山計画・パーティー構成・技術力・読図力・ エスケープ策など)

装備食料(計画に沿った準備・点検・管理・忘れ物他) 体調体力(焦り・過信・疲労・睡眠不足・飲酒・体調 管理ほか)

上記のことでの体験を下記の要領でお送り下さい ①氏名

- ②ヒヤリハットがあった年月日時刻
- ③その場所
- ④そのときの年齢
- ⑤同行者数、パーティ形態
- ⑥ヒヤリハットの状態、それに至る経緯など

⑦反省や対策、気がついたことなど ⑧写真や地図

上記のことについて、これまでの登山で体験したことについて、みなさま方の提供をお待ちします。様式は特にありませんので、前の箇条書きに沿って書いて下さい。

提供先…事務局

提供方法…メールまたはFAXで下記まで

メール jachigashi@lei.bbiq.jp

FAX 0977-21-3437

# 第 34 回全国支部 懇談会報告

宮原 照昭(15683)

7月22日(金) 待ちに待った北海道支部懇談会だ。3 月に予約して計画書作成した。北海道支部の計画ではA コ-スは登山時間が8時間かかるため黒岳で訓練登山し、 少しスタミナ不足で不安を持ちながら今日迎えた。

朝10時に、7人で博多駅経由福岡空港から新千歳空港着きレンタカーを借り、札幌ホテルい泊まる。23日(土)に2時過ぎ層雲峡グランドホテルに着き、直ぐに受付しそこで飯田夫妻・下川さんと合流した。これで東九州支部は10名参加となる。そして西山北海道支部長挨拶で始まり記念講演は、大雪山写真ミュージアム館長の市根井さんが大雪山の魅力を写真家として紹介した。

そして北海道支部からオリエンテーションがあり、全



員で約160名近く集まり日本山岳会は凄いですね。そして6時から懇親会が始まり西山北海道支部長の挨拶、来 賓挨拶に地元佐藤上川町長挨拶そして重廣副会長の乾 杯で始まりました。だんだん宴もたけなわになり、6月 にくじゅう連山に参加してくれた人達が多数お見えに なりその時の山行の話題で盛り上がりましたが、明日の 大雪山山行があるために就寝した。

#### 社团法人日本山岳会第34回 全国支部懇談会



いるが、担当になると人数と用意で大変である。そして 大雪山は約8時間縦走したが、九州の山と違いスケール が大きく、雪渓が何回もあり強風ありも川が増水して 色々な経験をした。又北海道の山に登りたいと思います。 参加者 加藤支部長・飯田(勝)・飯田(ひ)・土屋・尾家・ 工藤・下川・河野・渡辺(和)・宮原 10名



#### 交流登山(黒岳他)

7月24日(日)朝5時に朝弁当食べ玄関に準備していくと雨が降り出し雨具を急いで着け、Aコースは変更があり約70名。私は9班でリーダの橋本さん入れて尾家さん、下川さんと私の4名で行くことになりバスで約1時間銀泉台登山口に着く。

雨が降る中7時20分登山開始、最始から急登であるが登山道沿いには雪が解けて花が咲き乱れており、昨日の講演の市根井さんの説明通りで、登山道には色んな花(コマクサ・キンバイ・ウコンウツギ)などが咲いている。そして雪渓があり駒草平に着くと一人の脱落者は居ない。しかし天候が悪く予定より遅れている。そして雨と風がひどくなり赤岳には11時過ぎ着き、大きな岩で急いで軽食し、小泉岳に向かうが突風で歩き難い。

リーダの橋本さんに風のよけ方を教えてもらい段々と慣れてきた。北海岳の手前でハイマツの下で昼食し、北海岳の頂上付近は北風で写真撮る余裕がなく急いで黒岳へ登って行く。何回か雪渓あり又北海沢は川の増水で登山靴を濡あしら渡り、黒岳石室を経由して黒岳着く。3時過ぎでロープウェイで降りたのが4時過ぎ。急いでレンタカーでその日のうちに旭川の宿着いた。

今回の北海道支部懇談会と大雪山山行を振り返って 見ると、全国支部懇談会を34回開いていたのはビック リで、支部には2巡目も有り東九州支部1回懇談会して

### 第6期登山入門教室開講

26名が新たに受講

平成30年度登山入門教室が去る9月12日(水)に大 分市「ホルトホール・403号会議室」で開講されました。6年前のトレッキング入門教室から始まって今回が 6期目となる開講です。過去5期で137名の受講者が 修了したこの講座は、この間に16名の会員、3名の準 会員、36名の会友が生まれています。

今年の受講者は26名で、12日午後6時45分から 開講式。加藤支部長が「この講座を通じてより安全で楽 しい山登りのノウハウを会得していただき、登山の実践



第5期登山入門教室開講式

を通じて、今後も一緒に山のぼりを続ける仲間となって いただけることを期待します」とあいさつ。続いて座学 講座二回で計4時限、と実戦講座4回の説明をはじめと したオリエンテーション。

そのあと早速講座の開始です。最初は安東桂三副支部 長の講義で「安全な登山のために」。安全で楽しい山の 登り方、計画から実践までについて、実際の山登りの写 真映像などを交えての話です。続いて二時限目は阿南寿 範会員の講義で「山の地形や天気」・山の地図について の説明や磁石の使い方、地図と地形の見方、山の天候や 気象に関して、天気図や雲の形と天気望気などについて 説明がありました。

座学講座二日目は9月26日(水)に同じく大分市「ホ ルトホール405会議室で行われました。この日の講座 は、一時限目は「山の装備や道具」と題して、山岡研一 会員の講義で、山で必要な道具や装備の上手な選び方、 上手な使い方。次の講座は講師が国立病院機構病院看護 師で、登山歴12年の宮本陽子氏の講義で、「山でのア クシデントへの備え」と題して、山で起きるけがや病気 などについての予防や対処の仕方、道迷いや気象変化や 動植物などいろいろなアクシデントについての知識と 備えについての話でした。

さらに、10月7日に実践講座の初日。「実際に山に 登る第一歩から」と題して、場所を福万山に移して身近 な低山に登りながら、山登りの歩き方や、登り方、登山 道の見分け方、地図や磁石の使い方など、山登りの初歩 的体験。

午前9時に由布院スポーツセンターに集合し、まずは 安東桂三講師から安全登山の心構え。そして、この日参 加した受講者21名を4班に分けて、目標に向かって登 る訓練。この日手伝いに駆けつけた会員が各班について 適当にエスコート。みんなちょっと不慣れな体験に戸惑 いながら登っていきます。1046mの標高点で昼食の後、 福万山西の稜線を登って山頂へ。そして、ゴルフ場への 直登コースを下って出発地点へ戻りました。受講者の中 には北アルプスや富士山に登った経験のある人から、体 力づくりのためこれから山登りを始めようという人ま で多様ですが、みんな真剣に研修を受けようという姿勢 が見られたようです。(参加者…安東、阿南、飯田、田所、 宮原)

実践講座はこの後、10月26日には鹿嵐山に場所を 変えて、少しきつめの山道を体験しながら、安全で楽し い山登りの仕方を体験。11月17日(土)18日(日) に杵築市大田村の横岳キャンプ場でキャンプして (テン



トの張り方・山の装備や道具の整理整頓・使い方など) 翌日は津波戸山に登る体験など。

そして最後の平成30年1月19日(土)20日(日) に冬の雪のある山に登り、山小屋に泊る体験をテーマ に、くじゅうヒュッテ泊と泉水山・黒岩山・三俣山登山 で、実際に冬の雪のある山に登り、雪道を歩き、冬山体 験をして、冬の山小屋に泊まる体験もしよう。(冬の温 泉のある山小屋体験)などを計画しています

(報告 飯 田 勝 之)

#### 支部の会議報告

#### 支部役員会

第4回役員会 8月3日 金 コンパッレホール

- 1. 青少年体験登山大会について
- 2. 第六期登山入門教室にについて
- 3. 山の日登山について
- 4. その他

第5回役員会 9月3日 (月) コンパルホール

- 1. 青少年体験登山大会について
- 2. 第六期登山入門教室について
- 3. 60周年記念用事の準備とついて
- 4. その他

### 支部のルーム開催状況

8月3日(金) 18:00~21:00 大分市西部公民館

利用者10名

9月7日(金) 18:00~21:00 大分市西部公民館

利用者20名

10月5日(金)18:00~21:00 大分市西部公民館

利用者15名

### お知らせコーナー

### 月例山行のご案内

#### 11月月例山行:乙野岳(1100.9m)

(宮崎県日之影町・高千穂町:旧宮崎百山)

日 時…11月11日(日)

出 発…11月11日(日) 午前6時

集合場所・・大分駅南□(上野の森□)

リーダー・・・丹生浩司

参加申し込み期限… 11月2日(金)まで

参加申し込み

支部事務局(メールの受配信の都合により)

飯田勝之まで(FAX0977-21-3437 Email

jachigashi@leo.bbiq.

#### 12月月例山行:場照山・仙崎山

(忘年会と忘年登山)

日 時…12月8日(土)~9日(日)

※ 忘年会の項を参照

#### **1月月例山行:三俣山**(1744.3m)

(九重山の雪山に慣れる)

日 時…1月20日(日)

出 発…1月20日(日)午前6時30分

集合場所・・大分駅南□(上野の森□)

または午前8時までにくじゅうヒュッテ集合

※ 登山入門教室受講者とコラボ山行

装備・冬の一旦ハイキング装備・アイゼン・スノース

パッツ・食料ほか

リーダー・・・加藤英彦

参加申し込み期限… 1月11日(金)まで

参加申し込み 支部事務局 飯田勝之まで

(FAX0977-21-3437 Email

jachigashi@leo.bbiq.

#### 2 月例山行:十種ヶ峰 (988.6m)

(川口県・島根県・雪川を楽しす))

日 時···2月15日(金) · 16日(土)

出 発…2月15日(金) 午後6時00分

集合場所・・大分駅南口(上野の森口)

ース…15日・登山口にキャンプ

16日・神角(こうづの)神社より、十種ヶ峰

往復(日帰り雪中登山)

装 備・冬山登山装備(輪かんじき あるいは スノー

シュー必携)及び宿泊装備

リーダー・・安東桂三

参加申し込み・・TEL 090-5727-9472

Email keizoando@xa3.so-net.ne.jp

参加申し込み期限…2月6日(水)まで

(装備や準備のその他の問い合わせは 早くして

ください)

#### 3月月例山行: 皿内城山(536.7m)

(ちょっと険しい岩のある山)

日 時…3月17日(日)

出 発…3月17日(日)午前6時30分

集合場所・・大分駅南口(上野の森口)

装 備・日帰り山行装備及びヘルメット

リーダー…中野 稔

**参加し込み・・TEL 090-2712-5225** 

Email zermatt1111nm@gmail.com

参加申し込み期限・・・3月10日(日)まで

#### 4月月例山行: 目丸山 (1341.4m)

(カタクリの花をずねて)

日 時…4月27日(土)

出 発…4月27日(日)午前6時00分

集合場所・・大分駅南口(上野の森口)

装備・□帰りハイキング装備

リーダー・・・・注稿

参加申し込み…TEL 080-6408-8000

Email asanos@po.d-b.ne.jp

参加申し込み期限・・・ 4月20日(土)

### ヤブ山研修3回目

月 日…11月24日 (土)

コース…クサギヤブ〜新百姓山

集合場所・・・大分駅上野の森口 6:00 出発

装備・・□帰り登山装備で必須装備は地図、コンパス参加

申し込み…支部事務局 飯田勝之まで (FAX0977-21-

3437 Email jachigashi@leo.bbiq.

参加申し込み期限…11月16日(金)まで

### 青年部のお知らせ

#### 第1回研修山行

月日 11月17日(土)

場所 由布岳・観音岩:ロープワーク

集合 場所 正面登山口

時刻 8時集合

装備 登攀装備

#### 第2回研修山行

月日 12月8日(土)

場所 高崎山・大谷:アイゼンワーク

集合 場所 うみたまご駐車場

時刻 8時集合

装備 アイゼンを含む登攀装備

#### 第3回研修山行

月日 1月19日(土)

場所 九重連山 三俣山の沢 簡単な登攀

集合 場所 長者原駐車場

時刻 8時集合

装備 アイゼン、ピッケルを含む登攀装備

#### 第4回研修山行

月日 2月9(土)~11日(月)

場所 山陰地方の雪山

11 月から 1 月までの研修中に、参加者のレベルと

意見を聞いて調整する予定

※ 青年部(40歳代以下) 以外で研修に参加したい方は、事務局まで申し出て下さい。 意欲のある方を歓迎します

### 忘年出行と忘年会

平成30年の忘年山行と忘年会は下記の日程です。今年も皆様おなじみの登山家で日本山岳会副会長の重廣恒夫さんが全日程にゲストで参加します。たくさんの皆様の参加でにぎやかに楽しく今年を締めくくりましょう

忘年11月12月8日(土) 津島畑山(506.3m)

仙崎山(412.2m)

12月9日(日) 場照山(660.8m)

#### 忘年会

場 所 ホテル金水苑(佐伯市駅前2丁目4-13)

電話: 0972-22-8181

日 時 12月8(土) 午後6時から

会費14,000円(9日の山行参加者の弁当は別)

受付午後5:30~

#### 山行集合場形と時刻

12月8日(土) :午前7時00分大分駅上野の森集合 現地勢100場合: 藩江町波半津10出口

午前8時30分集合

12月9日(日)の山行のみに参加の場合 ホテル金水苑

午前8時00分集合

#### 年次晩餐会に一緒に参加しましょう

年に一回全国の会員仲間が一斉に集う、日本山岳会最大のイベント行事です。毎年にぎやかに、華やかに、盛大に催されます。昨年から会員でない家族も同伴が可能となりました。みなさん一緒に参加しましょう。

月日…12月1日(土)

**場所**・東京・京王プラザホテル: 本館5F

時刻・講演会等:13時から

晩餐会:18時から

会費…15,000円(一人)

受付開始・午後0時30分から

講演会·午後1:00~5:00

図書交換会は助い午後2:00~5:00

#### 晚餐会記念山行

**日時** · · 1 2月2日 (日曜日)

☆晩餐会の案内状は会報「山」10月号に同封されます ☆申込み締切りは 11月9日(金)ですが、個別に申 し込むと席は無作為に指定されますので、東九州支部 で同じ席を希望の方は事務局へ申し込んで下さい。事 務局で人数分の会費を一括振り込みし、同席を確保し ます。

### 第6回支部役員会の開催案内

本年度第6回支部役員会を下記の通り開催しますので役員の方はご参集下さい。

日 時…12月26日 (水) 午後6時00分より

場 所・大分市「コンパルホール・307会議室」

- 議題・① 平成31年度事業計画について
  - ② 大分百山党訂版の執筆世等について
  - ③ 60周年記念誌の編集等につて
  - ④ 登山入門教室実践講座こついて
  - ⑤ その他

閉会後、役員会忘年会も予定しています(会費 4,000 円ていど)

### 大分百山三訂版の執筆について

支部創立60周年(2020年)に向けて計画している大分百山の三訂版出版のため、会員のみなさまにお願いしている「一人一山執筆」。自分の執筆する山をまだ届け出ていない方はお早めに申し出て下さい。執筆したい山の名前を第一希望から第三希望までと氏名を事務局までお届け下さい。

#### 支部ルームの開催予定

11月2日(金) 18:00~21:00 大分市西部公民館 12月6日(木) 18:00~21:00 大分市西部公民館 1月4日(金) 18:00~21:00 大分市西部公民館 (12月は木曜日となっていますので要注意。1月は確 定ではありませんので、変更の場合はメールでお知らせ しますが、出席されるときには事前に事務局に確かめて 下さい)

### 新入会員,会友紹介

#### 会友

小野節雄 3 0年9月入会(会友番号 231) 丸井弘美 3 0年9月入会(会友番号 232) 丸井元江 3 0年9月入会(会友番号 233)

### 支部報電子版の受信のお願い

前回号で支部戦の電子版 (PDFファイル) を受信できる方を募りましたら23名の方から応諾いただきました。

支部報の印刷経費および発送**経費節減のため引き続きのお願いです。**メールで受信できる方には印刷した支部報の郵送はいたしませんが、印刷物と同じ内容の支部

報をPDFファイルで**全紙面カラー版でお送りできます**。応諾できる方は下記のメールに「支部報電子版受信を応諾します」と明記のうえ、氏名をはっきり書いて送信してください。

応諾下さった方には次号からPDFの支部報をメールでお送り致します。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

応諾メール発信先 jachi gashi@leo. bbiq. jp メールアドレスをお間違いにないようにお願いします

### 電子メールアドレス登録のお願い

メールアドレスを事務局に登録されている方には、支 部報に掲載以外のお知らせや行事や、支部報掲載の予定 変更、その他の各種情報を適宜お送りしています。

パソコンや携帯電話のメールアドレスで情報受信が 出来ていて、すでにアドレスを支部に知らせているとお 思いでも、これまで支部からの情報が一切送られていな ければ登録されていない方です。

未登録の方は支部からの情報配信を活かすため、メールアドレスの登録を願いします。登録方法は簡単です下記のアドレスに「メールアドレスの登録」と送信して下さい。その場合必ずご自分の名前を明記して下さい。jachigashi@leo.bbiq.jp

#### 後記

#### 東九州支部会員としての帰属意識

帰属意識(きぞくいしき・identification),辞書によると、ある特定の集団に対して一体感をもつかどうか、また、その一体感の程度がどれほどかを表す心理的な状態をさす。

特定の集団に対して帰属意識をもつということは、その集団の目標や価値体系や役割体系を内在化させる心理過程をたどった結果としての意識構造が存在することを表す。したがって、その集団の目標に適合するように自己啓発を図り、その集団の立場にたって状況を把握し、その集団の利益になるように行動しようとする態度が形成されているとみなされる。たとえば企業意識とは、各人の所属する企業への帰属意識の強さを示すもので、企業への感覚的な一体感の有無だけでなく、その企業の置かれている状況を的確にとらえて行動する姿勢があるかどうかが問題になる。[本間康平] 『尾高邦雄著『産

#### 業社会学講義』(1981·岩波書店)

ここで日本山岳会東九州**支部会員**(会員・準会員・会 友)の支部への帰属意識ということを考えてみたい。

『君は何が目的で日本山岳会に入ったの?』と聞かれて、何と答える?会員ならいろいろな答えがあるだろう。しかし会友となると多分一番多いのは『山に連れて行ってもらえるから。みんなと一緒に山に登れるから』ではないだろうか。

かく言う私は、ずいぶん長い間いわゆる一匹狼で山屋をやっていて、いかなる山岳クラブや同好会にも属せずに、一人で我流の山登りをつづけていた。

しかしある時、ある先輩に誘われて本会に入ったのであるが、その時の先輩の誘いの中でいちばんひかれたのが『山仲間から山の情報が得られるから』だった。インターネットでいろんな情報が得られる今日(必ずしも正確な情報とは限らないが)と違って、市販のガイドブックや山の月刊誌だけが情報原で、大分県内や九州などローカルな情報は乏しい頃だった。

『山男の好物はヨー\*、山の便りと飯盒のめしだよ』の歌のとおり、山の情報は山屋にとってはいつも涎が出るほど欲しいのだった。

とたまあ話はそれたが、それぞれ入会の動機には違いがあろうが、支部会員になったら、組織のメンバーだ。会の規約や規則あり、会費納入の義務や、月例山行をはじめ支部の行事や事業に参加したり関わったりする権利もある。しかしこの組織はあくまでも、山登りの同好会であり、個々の行動や意識に縛りがあるわけではない。支部という組織とのつながりに、意識の格差があるのは当たり前のことだ。

私がここで問いたいのは、最低限の支部への帰属意識だ。同じ山登りを趣味とする仲間の繋がりがベースとなり、自己啓発を図り、支部会員としての立場にたって状

況を把握し、支部の利益になるように行動しようとする 態度がありやなしや。 支部のおかれている状況を的確に とらえて行動する姿勢があるかどうか・・・・

月例山行やその他の山行で、自分の行きたい山の計画なら参加するが、そうでない計画には参加しないというのは至極当然のことだ。しかし、安全登山のための自己啓発や、登山計画の届け出、公益のために展開しようとする支部の登山活動計画等に積極的に関わるか、無頓着でいるのかは大きな違いだ。

支部への帰属意識には各々違いがあろうが、少なくとも「同じ組織に籍を置く山仲間だ」という帰属意識の気持ちだけは持ち合わせていたいものだ。支部の公益的事業で人手が足りなくて事業実施が危うい時、あるいは支部会員の誰かがどこかの山で遭難し、救援や捜索の動員が必要な時に、積極的に駆けつける山仲間はうちの支部でどれだけいるだろうか・・・・。毎号、支部報の編集をしながら、支部会員のどれだけの人が、どれだけこの紙面を読んでくれるだろうかと考えるのだが、今回もそのことを考えながらこんな文を書いてみた。

 $(K \cdot I)$ 

# 公益社団法人日本山岳会東九州支部 東 九 州 支 部 報 第83号

2018年 (平成30年) 10月25日発行

発行者 加藤英彦

編集者 飯田勝之

印刷所 佐伯印刷株式会社

発行所 事務局

〒874-0820 別府市原町5-14 飯田方

TEL·FAX 0977-21-3437

E - mail yamatomoki@ari.bbiq.jp

